

静岡県

退院が当たり前にできる地域を目指して

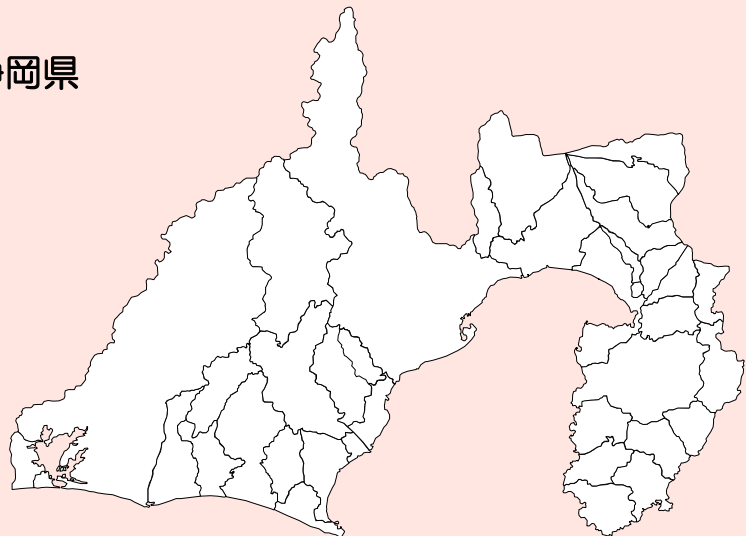
静岡県では・・・

医療と福祉、行政が連携した精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます。

また、この地域包括ケアシステムの構築を推進する人材育成のため、「官民協働」「多職種連携」の研修会を実施しています。

1 県又は政令市の基礎情報

静岡県



取組内容

【人材育成の取り組み】

県自立支援協議会地域移行部会に研修ワーキングを設置し、官民協働・多職種連携で研修会を実施

【精神障害者の地域移行の取り組み】

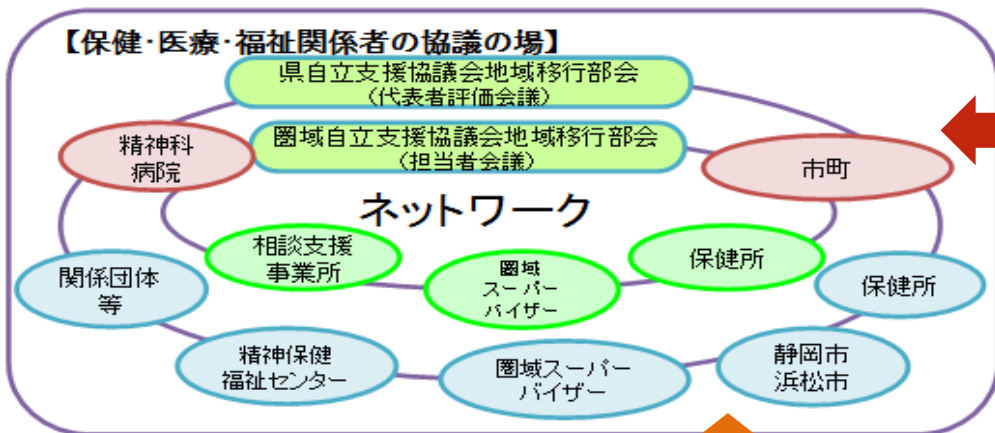
- ・ 県、政令市、職能団体等が連携し、県全体として地域移行の課題を共有し、課題解決のため事業の実施に取り組む。
- ・ 各圏域で地域移行のロードマップを作成し、圏域の特長を活かした事業に取り組む。

基本情報（都道府県等情報）

障害保健福祉圏域数 (H31年4月時点)	8	か所
市町村数 (H31年4月時点)	35	市町村
人口 (H31年4月時点)	3,641,988	人
精神科病院の数 (H31年4月時点)	32	病院
精神科病床数 (H31年3月時点)	6,590	床
入院精神障害者数 (H29年6月時点)	合計	5,530 人
	3か月未満 (%:構成割合)	969 人 17.5 %
	3か月以上1年未満 (%:構成割合)	1,228 人 22.2 %
	1年以上 (%:構成割合)	3,333 人 60.3 %
	うち65歳未満	1,507 人
	うち65歳以上	1,826 人
退院率 (H29年6月時点)	入院後3か月時点	57.8 %
	入院後6か月時点	79.6 %
	入院後1年時点	88.6 %
相談支援事業所数 (H31年4月時点)	基幹相談支援センター数	6 か所
	一般相談支援事業所数	134 か所
	特定相談支援事業所数	207 か所
保健所数 (H31年4月時点)	9	か所
(自立支援)協議会の開催頻度 (H30年度)	(自立支援)協議会の開催頻度 精神領域に関する議論を行う部会の有無	2 回/年 (有)・無
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況 (H31年3月時点)	都道府県	(有)・無 1 か所
	障害保健福祉圏域	(有)・無 8 / 8 か所/障害圏域数
	市町村	(有)・無 23 / 35 か所/市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

保健・医療・福祉関係者による協議の場



県での取組

○精神障害者の支援技法と障害特性を学ぶ研修

- ・ 障害分野と介護分野に従事する関係職員を対象に研修を実施。

○精神障害者地域移行定着推進研修

- ・ 「ピアサポート」をテーマに、地域移行関係職員を対象とした研修を実施。

○県統一カリキュラムによるピアサポーター養成研修

- ・ これまで各圏域でそれぞれ実施してきたピアサポーター養成研修を統一したカリキュラムを作成し、研修を実施。

各圏域での取組

精神科病院からの退院に向けた支援

○精神科病院の職員に対する研修実施

- ・ ＊行政機関、地域の事業所等が協働し、精神科病院の職員に向けた研修を実施する。
- ・ 院内研修の開催

○ピアサポートの活用

- ・ 精神科病院内で患者及び職員に対し、ピアサポーターに地域移行や地域生活について座談会を実施
- ・ 当事者同士の交流会の実施

○精神障害者の地域移行関係職員に対する研修

- ・ 地域移行を促進するための中核人材育成と障害と高齢分野の連携を目的にした研修を実施

地域生活の支援

○退院後の住居問題に関する連絡会

- ・ 宅建協会やGHとの連絡会

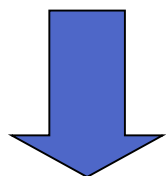
○退院に向けたプログラム

- ・ 先進病院の体験部屋の見学ツアーや退院後の施設見学ツアーの開催 等

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

平成25年度 行政、医療機関、相談支援事業所等を対象に地域移行支援研修会開催
(実施主体：県（精神保健福祉センター）)

**課題：いかに各圏域での体制整備につなげるか
研修で自覚した「やる気」「使命感」の継続**



県、政令市、職能団体が連携し、研修内容を企画、検討
医療、福祉、行政の連携体制の整備

平成26年度 官民協働により地域移行定着推進研修会開催
～
平成30年度 (実施主体：県、政令市、職能団体)

- 地域移行定着を推進する人材育成
- 圏域ロードマップ作成

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜平成30年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (H30年度当初)	実績値 (H30年度末)	具体的な成果・効果
①研修参加者数(地域移行)	140	127 (修了者数)	多職種からの参加があり、今回の研修のテーマでもある各圏域の好事例を自圏域へどう落とし込めるか議論することで、気づきのある研修を実施できた。
②研修参加者数(障害特性)	140	117 (修了者数)	多くの申し込みがあり、また、障害分野及び介護分野から参加があり精神障害の障害特性を広く学べる研修となった。
③ピア養成研修カリキュラムの作成	カリキュラムの完成	—	令和元年度にカリキュラム完成を目指す。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

1. 静岡県においては、平成27年度から地域移行に係る長期入院精神障害者地域移行総合的推進体制検証事業、平成29年から精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業を実施してきた。
2. 1の事業で蓄積したノウハウを他圏域に提供し、事業を推進させていく。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
ピアサポーターの活動に係る環境整備が不十分	県自立支援協議会地域移行部会内にピアワーキングを設置し、ピアサポーター養成研修の全県統一したカリキュラムの作成及び活動の場等の検討を行う。	行政	体制整備
		医療	ピアに係る理解及び助言
		福祉	ピアに係る理解及び助言
		その他関係機関・住民等	ピアに係る理解及び助言
圏域ごとに地域資源がまったく異なるため、圏域ごとの連携をどうしていくか	各圏域の課題に対して、必要な事業を再検討し、確実に実行できる仕組みを検討する。	行政	予算配分を含めた体制整備
		医療	事業実施に係る協力
		福祉	事業実施に係る協力
		その他関係機関・住民等	精神疾患に係る理解及び助言

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①ピア養成研修カリキュラムの作成	—	カリキュラム作成	カリキュラム作成により、各圏域で研修を実施できる体制ができる
②ピア養成研修会の実施	—	3回開催	圏域がそれぞれ実施しているピア養成研修を県で統一した内容で実施ができる
③協議の場コアメンバーによる戦略会議	—	会議の開催	必要な事業への集中と選択ができる

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R1年4月～ R1年5月	各圏域の事業実施 協議の場事務局会議	<ul style="list-style-type: none"> 各圏域の地域包括ケアシステム構築に向けた事業実施 今年度の取り組み方針について決定 (ピア養成研修の実施方針等)
R1年6～	協議の場研修・ピアWG の開催	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の研修及びピア養成研修の企画
R1年8～9 月頃	協議の場(地域移行部 会)の開催	<ul style="list-style-type: none"> 第1回県自立支援協議会地域移行部会を開催 (今年度の取組方針の承認)
R1年10月 頃	障害特性と支援技法を 学ぶ研修	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害者支援の障害特性と支援技法を学ぶ研修
R1年10月 ～	ピア養成研修	<ul style="list-style-type: none"> 県統一ピア養成研修(3カ所で開催予定)
R2年1月 R2年2月	地域移行研修(県) 協議の場(地域移行部 会)の開催	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害者地域移行定着研修(テーマはピア) 第2回県自立支援協議会地域移行部会を開催 (今年度の取組成果の共有)